プリキュアオールスターズ外伝 〜キュアエルス・ビギンズナイト〜

夢原信者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
プリキュアオールスターズ外伝　～キュアエルス・ビギンズナイト～

【Ｎコード】
Ｎ６５２６Ｐ

【作者名】
夢原信者

【あらすじ】
光明寺御子はいかにして救済のプリキュア・キュアエルスとなり、悪との戦いに身を投じる事となったのか・・・その秘密が遂に明かされる！！
もう１人の伝説の戦士が駆け抜けるもう１つのビギンズナイト・・・
今、知られざる物語が明らかに！！

プロローグ

・・・とある街
エルス「はあああ！！」
ドカァァァッ！！
ナケワメーケ「ナケワメ～ケ～！？」
ぶっ飛ばされるナケワメーケ
ドリーム「今だよ！！」
エルス「うん！！プリキュア！！ライジング・クラッシュ！！」
電撃を纏わせた飛び蹴りでナケワメーケは爆発した。
ドカァァァァァンッ！！
ドリーム「やったね！！」
エルス「うん！！」
・・・この世界に来て少しだが、もうすっかりメンバーに馴染んでる様子のエルス。
・・・さて、元々は『リリカルなのはゼロの世界』の時空管理局の科学者の娘だった彼女・・・光明寺御子が、いかにしてキュアエルスとなり、悪との戦いに身を投じる事となったのか・・・この物語で解き明かしていこう。

前編　～始まりの夜～

ナレーションが一部御子です。
尚、日々野未来さんの『ウルトラマンゼロ－リリカル超銀河伝説－』を読んでいないと、分かり難い部分があります。
星河の方のスバルは「」、ナカジマの方のスバルは『』で表記します。
内容がだいぶシリアスなので、あらかじめご了承ください。

ＯＰイメージ：Ｎｏｂｏｄｙ’ｓ　Ｐｅｒｆｅｃｔ
ＥＤイメージ：１７ｊｅｗｅｌｓ～プリキュアメドレー２０１０～

・・・今からさかのぼる事一年前・・・光明寺御子は時空管理局の科学者であった父、正と母、和子と共に『リリカルなのはゼロの世界』のミッドチルダに住んでいた。
両親は管理局の優秀な科学者だったのだが、正義感の強さから上層部の汚いやり方によく反発し、上層部からは目の上のコブと思われていた。
一方で、八神はやて率いる機動六課や、六課に協力しているガイアセイバーズとの関係は良好で、研究データの提供など、色々と協力していた。
～六課部隊長室～
はやて「いや～、いつもありがとうございます。正さん、和子さん。」
正「いえ、こちらこそいつも支援の方ありがとうございます。八神部隊長。」
和子「では私達はこの辺で・・・」
２人は部隊長室を出た。
・・・六課の宿舎内を歩いている時・・・

和子「・・・正さん、あの事、八神部隊長に言った方がいいかしら・・・？」
正「いや、まだ早い。せめてハッキリとした証拠を掴んでからでないと・・・」
実は、管理局の上層部が鳴滝率いるネガショッカーと繋がっている疑惑があり、２人はそれを調査しているのだ。
まだハッキリとした証拠までは掴めていないが・・・

〜〜〜〜〜〜〜〜

その後２人はクランナガンに建てられた光明寺家へと帰った。
両親が管理局勤めなので、経済面は非常に裕福であり、家も豪邸である。
？？？「お父さん、お母さんお帰りなさい！！」
２人を出迎えたのは１人娘の御子だ。
和子「ただいま御子。」
そして夕食を済ませた後、御子は両親の研究室にやってきた。
正「どうしたんだ御子？」
御子「ねえ、また『アレ』見せてもらってもいいかな？」
正「ああいいよ。」
御子が見せてもらっている資料は・・・
御子「カッコいいな・・・プリキュア。」
・・・世界が危機に瀕した時現れるという伝説の光の戦士プリキュア・・・
御子達がいた地球では、テレビアニメとして放送されていたが、正と和子は異世界での実在を突き止め、その力について色々と研究していたのである。
御子「私と変わらないくらいの子達なのに、みんなを守る為に戦ってる・・・私もこんな風にみんなを守れるようになりたいな〜。」
正「ははっ頼もしいな。だが忘れないでくれよ？力を持つという事は、それを正しく扱う責任が伴うという事を。」

御子「うん！！」

・・・あの頃は本当に幸せだった。家族一緒に暮らせて・・・でも・・・

〜〜〜〜〜〜〜〜

・・・それから少しして、正と和子は管理局の最高評議会が、鳴滝やシュウ・シラカワ、ウルトラマンベリアル達と繋がっている証拠を遂に掴んだ。

和子「正さん・・・やっぱりコレは・・・」

正「やはり・・・俺達の考えていた通りか・・・」

和子「どうする？」

正「すぐに公表するのはマズい。今度八神部隊長に会った時相談してみよう。」

〜〜〜〜〜〜〜〜

管理局・地上本部にある最高評議会・・・そこにはカプセルに入れられた3つの脳みそが・・・これが評議会の正体である。

『どうやら、あの事について突き止められたらしい。』

『かねてより目障りだったが・・・奴らにアレについて公表されるとマズい事になる。』

『いい機会だ。奴らには消えてもらうとしよう。』

『そうだな。我々が管理しなければ世界は駄目になってしまう。』

〜〜〜〜〜〜〜〜

・・・そして・・・運命のあの日・・・

あの日、私達は家族一緒に八神部隊長に会いに行く予定だった。無論、評議会の事を話す為だ。そして夜、出かけようとしていた時だった・・・

使用人「正さまっ！！和子さまっ！！大変です！！ネガショッカー

の怪人達が屋敷に・・・！！」
和子「なっなんですって！？」
正「まさか・・・気づかれたか・・・！？屋敷に残っている人達をすぐに避難させろ！！あと六課とガイアセイバーズに連絡を！！」
使用人「はっはい！！」
御子「お父さん・・・お母さん・・・」
和子「大丈夫よ御子。」
正「とにかく脱出だ！！」
・・・でも、結局逃げ場は無かった・・・真っ先にお母さんが怪人に斬られて、そして・・・
正「おっお前は・・・」
鳴滝「貴様達の存在は世界の調和を乱す事になる。・・・ここで消えてもらおう。」
バーンッ！！
あの男が・・・鳴滝が私の目の前でお父さんを・・・！！
鳴滝「ふっふっふっ・・・はははははっ！！」
高笑いを上げて、あいつは灰色のオーロラで姿を消した。
御子「そ・・・そんな・・・嘘でしょ？嘘って言ってよ・・・お父さん！！お母さん！！こっこんなのって・・・こんなのって・・・！！嫌ぁぁぁぁぁぁぁ！！」
泣き崩れる私の背後から怪人が襲ってきた。
御子「ヒッ・・・！！」

～～～～～～～～
・・・炎上した屋敷の外では・・・
なのは「落ち着いてください！！速やかに避難をっ！！」
高町なのはが脱出した使用人達の避難をしていた。
零斗「なのは！！これで全員か？」
諸星零斗が声を掛ける。
なのは「多分そうだと思うけど・・・『なのはさん！！』どうした

の！？」
スバル・ナカジマが声を掛ける。
スバル『家の主の光明寺夫妻と娘さんがいないそうです！！』
零斗「なんだって！？」
なのは「まさか・・・まだ家の中に・・・！？」

～～～～～～～～
・・・なんとか逃げ続いていたけど、結局追い詰められてしまった。
御子「い・・・嫌・・・誰か・・・」
そしてファンガイアが私に襲い掛かろうとした瞬間・・・！！
ザクッ！！
ファンガイア「グワァァァ！！」
御子「・・・え？」
見ると、襲い掛かろうとしてたファンガイアの腹部が背後から剣で貫かれてて、ファンガイアはそのまま砕け散った。
？？？「ふぅ・・・間一髪だったね・・・」
立っていたのは全身を青いアーマーで包んだ年下くらいの少年だった。シューティングスター・ロックマンの呼び名はあとから聞いた。
ＳＳロックマン「大丈夫ですか？」
御子「うっうん・・・あっありがとう・・・」
？？？「スバル君！！」
今度はピンクで丸い可愛らしい生き物が来た。
ＳＳロックマン「カービィ！！他に人は？」
カービィ「一応は居ないよ。さっき機動六課の白い服着た人と青い格好した仮面ライダーが大人の人２人運び出してたけど・・・」
御子「あ・・・！！お父さん達・・・！！」
ＳＳロックマン「分かった。取りあえず今は脱出しよう！！あなたも・・・」
御子「はっはい！！」
一同はＳＳロックマンの出した灰色のオーロラで屋敷を脱出した。

入れ替わりに正と和子の遺体を運び出したなのはとガタックに変身した零斗がやってくるが・・・
なのは「あれ？誰もいない・・・」
ガタック「おかしいな・・・話し声が聞こえた気がしたんだが・・・」

～～～～～～～～
屋敷を脱出した御子達。ＳＳロックマンは電波変換を解いて星河スバルの姿に戻っている。
スバル「・・・ごめんなさい。ご両親を助けられなくて・・・」
御子「いいですよ・・・あなた達は私を助けてくれたじゃないですか。」
それから私は彼らの事情を聞いた。紅渡って人に頼まれて、あの男・・・鳴滝を追って来た事。そして、最高評議会のお父さん達の暗殺計画を知って、阻止しようとしてた事を・・・
御子「そうだったんですか・・・」
スバル「鳴滝も評議会も・・・どうしてここまで・・・！！」
カービィ「それで、君どうするの？」
そうだった。帰るべき家も家族も失ってしまった。
御子「どうしよう・・・」
スバル「あの・・・よろしかったら、僕達と一緒に来ませんか？」
御子「え？でも・・・」
スバル「大丈夫ですよ。それに・・・大切な家族を失う悲しみ・・・僕にも覚えがありますから・・・」
御子「・・・ありがとうございます・・・（涙ぐむ）」
・・・そして、私は彼らと行動を共にするようになった。
みんな私に家族のように接してくれて、優しくしてくれて・・・
・・・そんな中、私にもう１つの運命の時が迫っていた。伝説の力を手にするその時が・・・

・・・中編　～守りたい願いと目覚める力～に続く・・・

中編　～守りたい想いと目覚める力～

今回もナレーションが一部御子です。
同様に星河の方のスバルは「」、ナカジマの方のスバルは『』で表記します。

ＯＰイメージ：Ｎｏｂｏｄｙ’ｓ　Ｐｅｒｆｅｃｔ
ＥＤイメージ：１７ｊｅｗｅｌｓ～プリキュアメドレー２０１０～

御子が異世界戦士達と行動を共にするようになって一週間後・・・
熱斗「あれ？御子さんは？」
成歩堂「さっきご両親のお墓参りに行ったよ。」
光熱斗と成歩堂龍一が話している。
カービィ「あの子・・・やっぱり気にしてるみたい。『私が弱かったからお父さん達は死んだんだ』って・・・」
スタフィー「フィ～・・・」
スバル「僕達の前じゃ無理して気丈に振る舞ってるけど・・・やっぱり悲しんでるよね・・・なんとかしてあげたいけど・・・」

～～～～～～～～～
・・・クランナガンの墓地に御子はいた。
両親の墓に花を手向け、しばらく祈ると、次は家の焼け跡へと向かった。
御子「・・・お父さん・・・お母さん・・・」
あの後、事件は疑いが掛かる事を恐れた評議会によって、事故としてもみ消されてしまった。八神部隊長達は異議を唱えたけど、聞き入れられなかったらしい。
御子「どうして・・・どうしてこんな事に・・・」
お父さん達は何も間違った事はしてなかった。それなのに・・・

しばらくそのまま佇んでいたら・・・
ドーンッ！！
御子「なっ何！？」
街の方から凄い音が聞こえた。
御子「一体何が・・・」
嫌な予感を感じ、私は街へと走っていった。

～～～～～～～～
ドーンッ！！
街ではガジェット・ドローンやネガショッカーの怪人達が暴れ回っていた。
住民1「ひぇ～！！」
住民2「うわ～！！」
怪人達を見た瞬間、私の脳裏にあの夜の光景が蘇った。
御子「ヒッ・・・！！」
どうして・・・どうして何の罪もない人達を平気で傷つけられるの・・・！！私達家族だけじゃない。こんなに大勢の人達まで傷つけて・・・！！
御子「私に・・・もっと力があったら・・・！！」
『きゃあああ！！』
御子「ッ！？」
見ると、女の子が1人逃げ遅れていた。
無我夢中で駆け寄り、避難させる。
御子「早く逃げてっ！！」
少女「うっうん！！」
女の子は逃げていった。
御子「ふぅ・・・あっ！！」
しかし私の背後から怪人が襲ってきた。
怪人「グオオオオッ！！」
御子「クッ・・・！！」

もう駄目かと思った時、
???「ディバイーン・・・バスター!!」
青い魔力球が怪人を吹っ飛ばした。
目の前にはバリアジャケットを身に纏ったスバル・ナカジマの姿。
スバル『大丈夫!?』
御子「う・・・うん。」
スバル『良かった・・・』
ティアナ「スバル!!いくわよ!!」
スバル『うん!!』
戦い始める2人。
御子「機動六課・・・」
しかし多勢に無勢か、次第に劣勢になっていく。
ドーンッ!!
スバル・ティアナ『「きゃあああ!!」』
吹っ飛ばされる2人。
御子「あっ・・・!!このままじゃ・・・!!」
また・・・私は何もできないの・・・?目の前で人が傷つき、倒れていくのを黙って見てるしかないの・・・?これ以上、誰かが傷つく姿は見たくないよ!!
御子「私にも・・・力があれば・・・!!」
その時、視界が真っ白になった。

〜〜〜〜〜〜〜〜
・・・気が付くと、周りが真っ白な場所にいた。
御子「ここは・・・?」
???「気が付いたか?」
振り返ると、目の前には金髪のツインテールで緑色の瞳で二十代ぐらいの女性が立っていた。
御子「あなたは・・・?」
???「私か?私は・・・取りあえず神とでも覚えておけ。」

御子「神・・・ですか・・・それで、神様が私に一体・・・」
神？「お前に頼みたい事がある。世界を救ってほしい。」
御子「私に世界を・・・？でっでも、私には何の力も・・・」
神？「心配するな。ちゃんと用意してある。お前にはこの力が一番合ってる。」
すると、御子の前に何やら携帯電話のような物が。
御子「これは・・・」

～～～～～～～～～

御子「ハッ！！」
その時、御子の意識は現実に戻される。
御子「今の・・・夢・・・？・・・ん？」
彼女の目の前には先ほどの携帯。
御子「これは・・・じゃあやっぱり・・・？」
携帯を手に取った瞬間・・・！！
ドクンッ！！
御子「ッ！？」
何・・・？この感覚・・・不思議と力が湧き上がってくるような・・・
スバル『あなた！！早く逃げ・・・！？』
御子は携帯を手にすると、無意識の内に叫ぶ。

御子「プリキュア！！ライトニング・トランス！！」

・後編　～キュアエルス、最初の戦い～に続く

～～～～～～～～

案外早く更新できてる・・・この分だと今日中に完結できそう・・・
(笑)
日々野さんすみません！！勝手に御子にプリキュアの力与えたのお

宅のナギにしてしまいましたっ！！（汗）

後編　～キュアエルス、最初の戦い～

今回もナレーションが一部御子です。
同様に星河の方のスバルは「」、ナカジマの方のスバルは『』で表記します。

ＯＰイメージ：キラキラｋａｗａｉｉ！プリキュア大集合♪　～キボウの光～
　ＥＤイメージ：１７ｊｅｗｅｌｓ～プリキュアメドレー２０１０～

御子「プリキュア！！ライトニング・トランス！！」
無意識の内にそう叫ぶと、御子は光に包まれ、その姿が変わる。
緑を基調とし、黒いリボンが付いた衣装。髪が普段より伸びて、エメラルドグリーンのカラーになる。
スバル『なっ何アレ！？（汗）』
ティアナ「少なくとも・・・魔法じゃないわね。」
驚いている２人だが、一番驚いているのは他ならぬ御子自身である。
御子「えっえぇ！？なっ何この格好！？わっ私一体・・・ん？」
ふと考えてみると、今の私の姿、何かに似てる気がする・・・えっまさかコレって・・・
御子「まっまさか・・・プリキュア！？わっ私が！？」
戸惑っている御子をよそに、ガジェット数機が突っ込んできた。
御子「ヒッ！！こっ来ないでっ！！」
バシッ！！
ドカァァン！！
御子が振り回した腕がガジェットに当たり、ガジェットは派手に吹っ飛ばされたのち爆発してぶっ壊れた。
御子「・・・え？」
ティアナ「ガッガジェットを素手で！？（驚愕）」

ティアナの驚愕をよそに、自分の力に驚く御子。
御子「いっ今の・・・私が!?それに・・・」
この全身に力が漲るような感覚・・・これが・・・プリキュアの力・・・!?でっでもこれなら・・・!!
御子「これなら・・・今の私なら・・・いける!!」
御子は怪人達へと向かっていった。

〜〜〜〜〜〜〜〜
・・・場所を変えて、現場へと向かっているなのは。
念話で零斗からある事を聞き、驚愕する。
なのは「え!?フォワード2人以外に誰か戦ってる!?分かった!!」
念話を止め、飛ぶスピードを速める。
なのは「(一体・・・何者なの・・・?)」

〜〜〜〜〜〜〜〜
現場では、御子が怪人達やガジェット達を蹴散らす。
御子「はあああああっ!!」
ある者はパンチで貫き、またある者はキックで粉砕し、またある者は投げ飛ばす。
ティアナ「つっ強っ!?」
怪人「グオオオオ!!」
背後から襲ってきた怪人の攻撃を大きく跳躍し、回避する御子。
御子「凄い・・・!!身体が羽みたいに軽い!!」
離れた所に着地し、怪人達を見据える。
怪人「くそっ!!貴様いったい何者だ!?」
御子「私の名前・・・」
もうこれ以上誰も傷つけさせない。人の悲しみを照らす光になりたい。そう、私は・・・!!
御子「救済と新生を司りし閃光・・・キュアエルス!!」

これが・・・救済のプリキュア・キュアエルス誕生の瞬間であった。
スバル『キュア・・・エルス・・・』
怪人「おのれぇぇぇぇ！！」
残った怪人一体が突っ込んでくる。
エルスは右足に電撃を纏わせ、必殺技の体制に入る。
エルス「プリキュア！！ライジング・クラッシュ！！」
電撃を纏わせた必殺キックが怪人に炸裂する。
ドカァァァァァン！！
怪人「グワァァァァァァァッ！！」
エルス「やった！！」
そこに今度は大型のガジェットが現れ、ビームを放ってくる。
エルス「クッ！！」
避けるエルス。
エルス「大きいからパンチやキックはあまり効かなさそう・・・ん？・・・そうか、コレなら・・・！！」
専用武器のライトニングロッドを召喚するエルス。
エルス「ハアッ！！」
ロッドからエネルギー弾が放たれ、ガジェットに炸裂する。
ドカカカカッ！！
よし、効いてる！！
ガジェットが突っ込んでくるが、エルスはロッドを剣に変え、ガジェットを斬りつける。
ズバァァァッ！！
スバル『すっ凄い・・・！！』
戦い方が自然と分かる・・・全然負ける気がしない・・・！！
エルス「これで・・・決める！！」
剣の刀身に光エネルギーを集中させるエルス。
エルス「プリキュア！！ライトニング・スラッシャー！！」
光エネルギーが斬撃となって放たれ、ガジェットを切り裂いた。
ズバァァァッ！！

真っ二つに切り裂かれ、ガジェットは機能を停止した。
エルス「ふぅ・・・」
私は六課の2人に駆け寄った。
エルス「大丈夫だった？」
スバル『はっはい！！ありがとうございました！！』
ティアナ「そっそれよりアンタいったい何者なのよ？」
エルス「私は・・・」
そこになのはがやって来た。
なのは「スバル！！ティアナ！！大丈夫だった・・・ってあなたは？」
スバル達は事情を説明した。
なのは「そうだったの・・・私の部下達を助けてくれてありがとう！！」
エルス「いえ・・・」
なのは「それで、あなたはいったい・・・？」
エルスはその問いに対して・・・
エルス「キュアエルス・・・覚えておいてください。」
一言そう言うとその場から立ち去っていった。
ティアナ「なんだったのかしら・・・」
スバル『でも悪い人じゃなさそうだね。』
なのは「（キュアエルス・・・いったい・・・何者なの・・・？）」

〜〜〜〜〜〜〜〜
街から離れたエルスは、成歩堂とスバル（星河の方）と合流し、事の次第を説明した。
スバル「あなたがプリキュアに！？」
エルス「はい。」
成歩堂「まさか君がプリキュアになるとは・・・」
エルス「私にも信じられないですよ・・・でも事実です。もう少し早ければお父さん達も守れたんだけど・・・」

スバル「御子さん・・・」
エルス「・・・でも、力を授かったからには、きっと何か意味がある筈・・・だから、私も戦います！！」
成歩堂「と言うと・・・？」
エルス「お父さん達の平和への願い・・・私が引き継ぎます。もうこれ以上誰かが悲しむのを見たくない。この力で・・・このプリキュアの光で、みんなを守る！！」

・エピローグへ続く・

エピローグ　～本当の始まり～

・・・それが・・・私のキュアエルスとしての最初の戦いだった。
そしてそれから一年間、スバル師匠の元で鍛えられながら、鳴滝率いるネガショッカー、そしてスーパーネガショッカーと陰で戦い続けてきた。
そして・・・師匠の薦めで、私は他のプリキュア達のいる世界に降り立った。
それから他のプリキュア達の戦いを観察したり、プリキュア達の実力を知る為に正体を隠してキュアピーチと戦ったりもした。
・・・そして今、怪物達と対峙していたキュアピーチの前に、私は立ってる。
御子「あなたと会うの、これで二回目なんだけど。」
ピーチ「そのマント・・・！！まさかあの時の相手って・・・！？」
御子「そう。私だよ。試すようなマネしちゃってゴメンね。でもどうしても知っておきたかったのあなた達の実力を。」
ピーチ「あっあなた・・・一体・・・？」
御子「教えてあげる。私は・・・」
これが・・・私にとっての新たな一歩・・・ううん、これからが本当の始まりなんだ。
お父さん・・・お母さん・・・私きっと、２人が目指したみんなが笑い合える世界を作ってみせる。だから、安心して見守っていてね・・・

プリキュア！！ライトニング・トランス！！

～キュアエルス・ビギンズナイト～　―完―

～～～～～～～～

キュアエルス誕生の物語、いかがだったでしょうか？
いやはやいつもより話が早く浮かんできて、1日で完結いっちゃいました！！（笑）
ではこれからも僕の小説をよろしくお願いします！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6526p/

プリキュアオールスターズ外伝 〜キュアエルス・ビギンズナイト〜

2011年5月30日21時53分発行